



# 本物を 忠実に再現した 鎧兜に光る職人の技。

## 甲冑工房 丸武

丸武産業(株)  
田島 英行氏

昭和52年10月生まれ。阿久根市出身。緻密さで知られる『百二十間兜』を手掛けたことも。趣味はバイクと魚釣り。「魚釣りは全国大会に出るのが目標です」。



**時** 代劇のドラマや映画に欠か  
せない甲冑(鎧兜)。薩摩川  
内市に全国でも珍しい甲冑工房が  
ある。その名も『甲冑工房 丸武』。

実際に武将が戦で着用した本物の鎧兜を、細部に至るまで設計通りに再現し、丹念に仕上げている。何十種類にも及ぶ甲冑の仕様をすべて記憶し、一つの甲冑が完成するまで最低でも10日間、延べ20人以上が関わる。熟練した職人の技は高く評価され、平成9年には鹿児島県指定伝統的工芸品にも指定された。

職人集団の中で、主に兜(かぶと)を手掛けているのが田島英行さん。もともとは板金の仕事に携わっていたが、腕の良さを買われ、9年前に入社し

た。甲冑の材料は鉄などの金属が多く、板物は全て一枚ずつ手で打って作る。「着る人の体型や頭の形に合わせて、鉄を伸ばしたり、曲げたりします。鉄の習性を知っていたことが、今の仕事に役立ちました。」最初は先輩職人の仕事を見ながら、自分で工夫する日々。休日や出張先では博物館を訪れ、本物の甲冑を見て目の肥やしにした。「これまでたくさん手掛けてきました。職人の性なのか、達成感より反省が多いですね。次はもっと工夫して、良いものを作りたい。ただそれだけです」と笑う田島さん。技を追求する日々には終わりはない。



# 世界の人にも 知ってもらえる 焼酎を造りたい。

## 田苑酒造株式会社

田苑酒造(株)  
製造部 研究室 開発担当 杜氏  
岩元 麻美氏

昭和61年12月生まれ。薩摩川内市出身。趣味は旅行と登山で、先日も雪山へ行っただけ。「旅先で自社の商品に出会うとテンションが上がります!!」。



**手** 渡された名刺に音符が踊る。そこに記されていた肩書きには「杜氏」の文字があった。

「日本初の樽貯蔵麦焼酎」「長期貯蔵」「クラシック音楽仕込み」など、画期的な取り組みを行う薩摩川内市の『田苑酒造』。岩元麻美さんは社内唯一のまた、県内でも数少ない女性の杜氏として、焼酎と向き合う日々を送っている。

田苑酒造のすぐ近くで育った岩元さん。鹿児島大学農学部に進み、「おもしろそう」と選んだのが焼酎学講座だった。学生時代は芋・黒糖焼酎について学んだが、就職先は偶然にも実家近くの田苑酒造だった。田苑酒造では、麦焼酎をメインに、芋焼酎のほか、米焼

酎や酒粕焼酎、樽や甕で貯蔵した焼酎など、個性豊かな商品を手掛けている。特に印象に残っているのが昨年6月に発売された『とっておき梅酒』。女性の女性性による女性のための製品開発をコンセプトに、樽貯蔵麦焼酎をブレンドした大人の雰囲気漂う梅酒だ。「梅のさわやかな香りと、樽由来の甘い風味を最大限に引き立てるため、梅酒ではまれな高めのアルコール度数に仕上げています。実は男性にも人気なんです。今後もお客さまがワクワクするような商品を手掛けたら」と夢を語る岩元さん。その視線の先は未来へと注がれていた。





## 平成29年度インバウンド対策事業

### 「おもてなし英会話研修会」 受講者募集

本県を訪れる外国人観光客等は、アジアの航空直行便、クルーズ船を利用して増加しており、さらに東京オリンピック・パラリンピックが開催されるなど、今後も観光客の増加が期待されています。最近の外国人観光客は、地域の特性を生かしたモノづくり体験や人とのふれあいを楽しむ目的で観光する傾向にあることから、本県特産品の理解と認識を深めていただくとともに、外国人のニーズを的確に捉えた商品開発を支援するため基礎的な英会話講習会を実施します。

- 1 名称** おもてなし英会話研修会
- 2 実施期間(予定)**  
○鹿児島市会場  
5月、6月、7月(全3回コース)各回90分  
○奄美大島会場  
7月(全1回の集中講義)4時間
- 3 講師** アイエス通訳システムズ
- 4 内容** 基本的な応対や商品説明、販売などに必要な基礎英会話の講習。  
※受講者から事前アンケートによる要望等をふまえた内容。
- 5 受講料** 3,000円(テキスト代等)
- 6 定員** 各会場30名程度(先着順)
- 7 対象者**  
(1)インバウンド向けの特産品の製造・生産等体験・見学施設や販売施設を有する事業所・団体等  
(2)海外への市場拡大を希望する事業所等
- 8 お問合せ先**  
企画開発課 担当:堀脇  
TEL:099-223-9177

※日時、場所等については、詳細が決まり次第、ご案内いたします。

### 「特産品協会だより」 ご意見掲示板

会員の皆様方からお寄せいただいた、ご意見・ご感想を紹介いたします。

- シンガポールやマレーシア等で売れている商品やこれから期待できる商品の紹介が欲しいです。
- 女性目線の身近な話題や出来事があると楽しいと思います。
- 「明治維新150周年」にかけて、各会員の10、30、50、100...周年を連載してみたいかがでしょうか。

今後も皆様方からお寄せいただいた、貴重なご意見を会報誌づくりに活かして参ります。

本誌に関するご意見・ご感想は、同封のアンケート用紙にご記入のうえ、FAXにてお送りください。

# 奮闘記

ふるさと特産運動  
推進指導員  
恵原 要

## 坊津ガラガラ船・唐カラ船 県指定の伝統的工芸品に

「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」で国が指定している225品目とは別に、県が指定する伝統的工芸品があるが、このたび11年ぶりに「坊津ガラガラ船・唐カラ船」が指定された。

ガラガラ船は、端午の節句に男の子たちが浜辺で引き回して遊ぶ玩具で、かつて海上交通の要地として栄えた坊津で、明治の頃から親が、わが子の健やかな成長を祈り作ったといわれている。

戦後、この風習は途絶えていたが、昭和49年に坊津観光協会での協議をもとに、ガラガラ船を土産品として生産する取り組みが始まり、昭和52年には、唐カラ船祭りが復活している。

毎年5月の節句に、就学前の男の子たちがガラガラ船を曳いて公民館から九玉神社へ練り歩いた後、近くの泊浜で唐カラ船競争が行われる。

ガラガラ船は、杉、檜などを用い、舟型の板を両側から箱形に組み、下に4つの車が付くもので、中央に1本の帆柱が立つ。これに、古着などで作られた色鮮やかな模様の帆布をかけ、へさきや船縁から張り渡した帆綱には、人形を模したサイノコが多数ぶら下がる。

玄関や床の間の飾りとして、新築祝いや結婚祝い、出産祝いで購入する人が多く、県外からの注文もあるというガラガラ船であるが、後継者の問題も抱え、地域としてどのように残していくかが問われている。

そのような中で、坊津歴史資料センター輝津館ではサイノコ作りの教室が開かれており、また、ガラガラ船を作っている人が他にもいることなどから関係機関からの提案もあって、昨年12月に「ガラガラ船・唐カラ船保存会」が結成された。

ガラガラ船は、全国的に見ても特徴のある郷土玩具であり、祭りにも使用されるなど、地域に根ざした文化となっている。鹿児島県の伝統的工芸品としてその名が全国に知られ、末永く受け継がれていくよう願うものです。



玩具としては、「ガラガラ船」の名称が一般的に使用される